

## I 調査事件

### 1 所管事項

観光力の向上に関すること

### 2 調査並びに審査事務

(1) 県内宿泊客増加に向けた観光の振興に関すること

(2) 質の高いイベントの実施と県の文化力の向上に関すること

## II 調査の経過

令和2年の奈良県への観光客数は2,623万人で、令和元年と比べて1,879万人(41.7%)減少した。これは、政府の緊急事態宣言発出による観光施設の臨時休業やイベント行事の中止があったこと、緊急事態宣言解除後も県境をまたぐ移動自粛の呼びかけがなされていたこと等、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きい。

また、令和2年の観光消費額は826億円で、令和元年と比べて981億円(54.3%)減少し、1人あたりの観光消費額は4,910円であった。

そして、令和2年の奈良県延べ宿泊者数は前年と比べて49.2%減少、平成21年以降最も少ない約143万人であり、令和3年の奈良県延べ宿泊者数は約155万人と令和2年と比べて8.0%増加したものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年と比べると45.2%の減少という状況である。

これら奈良県の観光の現状を踏まえ、本委員会は、観光力の向上を図ることを調査の目的として、「県内宿泊客増加に向けた観光の振興に関すること」、「質の高いイベントの実施と県の文化力の向上に関すること」を調査並びに審査事務とし、令和3年7月2日に設置された。以来、11回にわたり委員会を開催し、関係部局の取組について聴取するとともに、県内における取組などの調査を行った。

### Ⅲ 調査の結果

#### 1 奈良県の取組状況

奈良県では、2037年予定のリニア中央新幹線の奈良市附近駅の設置をはじめとする、長期的な社会的背景の変化を視野に入れるとともに、新型コロナウイルス感染症禍から受けた観光への影響のような、突発的な事象に対応する適時適確な施策を遂行すべく、県内宿泊客の増加に向けた取組や、県の魅力向上につなげるための各種拠点の整備やイベントの実施、文化力の向上に向けた取組を実施している。

本委員会では次の内容について調査を行った。

##### (1) 県内宿泊客増加に向けた観光の振興

奈良県は、日帰り観光客の比率が高く、1人あたりの観光消費額が低いことから、経済活性化のため、1人あたりの観光消費額が高い、宿泊を伴う周遊・滞在型観光を促進する必要がある。また、県内全域への周遊につなげるため、交通・道路体系のさらなる整備や、奈良県産食材を使用した食の提供などの要素も必要である。

そこで、宿泊施設を質・量ともに充実させ、多様な観光客に配慮した受入環境や古都にふさわしい良好な景観を整備するなどして、心地よく滞在できる、泊まりたい奈良を実現すべく、県において様々な取組を行っている。

<主な事業の内容>

- ・ 情報発信等の取組を通じたガストロノミーツーリズムの推進及び拠点化
- ・ 県産食品の掘り起こしとその改良、奈良まほろば館のショップやレストランを通してのPR
- ・ 文化財建造物等の宿泊施設への活用  
(吉城園周辺地区整備や旧奈良監獄ホテル整備支援等)
- ・ 鉄道駅のバリアフリー化に対する支援
- ・ ぐるっとバスの運行やパーク&バスライドの実施等による奈良公園周辺の交通周遊環境の向上
- ・ シェアサイクルの普及促進等自転車の利用促進
- ・ 奈良まほろば館等をはじめとする首都圏でのプロモーションの展開
- ・ 安全・安心を確保した団体旅行等の誘致強化

## (2) 質の高いイベントの実施と県の文化力の向上

観光客が訪れたいくなるような魅力の磨き上げとして、社寺等の奈良が誇る貴重な歴史文化資源をさらに観光に活かしていくとともに、そのほかの奈良の魅力についても広く知らしめ、新たな観光誘客につなげることが必要である。また、宿泊者が減少する季節に味わえる魅力を創出するなど、バラエティ豊かな観光地にしていく必要がある。

そこで、自然・歴史・文化資源の保存・活用を通じて悠久の歴史を感じられる、また、奈良ならではの魅力的なイベントや体験メニューを四季を通じて楽しめる奈良を実現するべく、県において様々な取組を行っている。

### ①質の高いイベントの実施

<主な事業の内容>

- ・ なら歴史芸術文化村を核とした集客の仕組みづくり  
令和4年3月21日開村
- ・ 文化・芸術イベントの実施  
(ムジークフェストなら、みんなでたのしむ大芸術祭、えんがわ音楽祭、MIND TRAIL 奥大和等)
- ・ マラソン、サイクルスポーツイベントの実施  
(奈良マラソン、モバイルグランフوندin奈良・吉野、ツアーオブ奈良まほろば、ヒルクライム大台ヶ原、K o b o T r a i l)
- ・ にぎわいをつくるイベントの実施  
(平城京天平祭、大立山まつり、ぐれーとさまあーふえすた、なら燈花会、若草山焼き行事、しあわせ回廊なら瑠璃絵、やまと花ごよみ、奈良フードフェスティバル等)

### ②県の文化力の向上

<主な事業の内容>

- ・ 世界遺産、日本遺産、記紀・万葉等の、奈良らしい歴史文化資源を活かした観光商品の開発
- ・ 自然・歴史・文化資源のわかりやすい解説と多言語対応
- ・ 奈良のシカの保護・管理
- ・ 平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）の整備
- ・ 平城宮跡歴史公園南側地区の整備

## 2 県内外の取組状況

### (1) 奈良まほろば館

(調査目的：奈良まほろば館の概要と移転リニューアル後の取組について)

#### (1) 概要

奈良まほろば館は、日本橋エリアの再開発事業に伴い、メディアや旅行エージェント等の会社が多数立地する新橋に移転し、令和3年8月10日、リニューアルオープンした。本県の観光、食、農産物、伝統工芸などの多様な魅力を一体的に発信するため、物販・レストラン・イベント・観光案内機能を備えた総合的な情報発信拠点として整備し、首都圏マーケットや顧客ニーズの収集を通じて、県内の埋もれた商品を発掘、売れる商品づくりを展開し、県産品の流通・販売拡大を図っている。

#### (2) 運営状況

物販の来館者数は87,290人(1日当たり約610人)、売上額は51,929千円(1日当たり約363千円)であった(令和3年8月10日～同年12月31日)。オープン当初は新型コロナウイルス感染症第5波等の影響を受け、来館者数、売上額ともに伸び悩んでいたが、積極的なメディア露出等の取組等により、令和3年9月以降は順調に伸びている。平均客単価(1人あたりの購入単価)は1,900円前後で推移しており、以前より大きく上回っている。これは、ショップ内の軽飲食可能なCafe&Barが好調であること等が要因であると分析している。

また、レストランの利用者数は1,347人(1日当たり約13人)、売上額は11,206千円(1日当たり約106千円)であった(令和3年8月18日～同年12月31日)。オープン当初は緊急事態宣言の影響で、営業時間短縮や酒類提供自粛等で利用が伸び悩んだが、令和3年10月以降は団体利用など、徐々に利用者数が増加している。

このほか、観光案内の対応人数は1,944人(1日当たり約14人)であった(令和3年8月18日～同年12月31日)。

次に、経費であるが、1㎡あたりの経費合計は、移転前(日本橋)12,800円に対し、移転後(新橋)13,800円となっており、ほぼ同じ額となっている。

移転後(新橋)の1㎡あたりの賃借料は13,500円であるところ、近隣のアンテナショップと比較すると、とっとり・おかやま新橋館15,000円、香川・愛媛せとうち旬彩館13,800円と、その額は下回っており、奈良まほろば館の賃借料は適正な水準であるといえる。

### (3) 移転リニューアル後の取組

まほろばチャレンジリーグや「伝えたい奈良のこだわり」フェアを実施。まほろばチャレンジリーグでは、移転後新たに、首都圏での販路拡大に意欲を持つ事業者を対象に、競争させた上で、売れ行きの好調だった商品を継続販売し、首都圏における定番商品をつくる取組を行っている。

また、「伝えたい奈良のこだわり」フェアは、県庁バイヤー自ら県内を巡り、首都圏で知られていない食品等を発掘したものを紹介・販売する取組で、これまでに2回実施している。

## (2) 平城宮跡

### (調査目的：施設整備の状況について)

#### (1) 概要

平城宮跡歴史公園は、我が国固有の優れた文化的資産である平城宮跡の保存・活用を目的とする公園。平城宮跡は、我が国の律令国家が形成された奈良時代の政治・文化の中心として、多くの重要な遺構が確認されており、学術上きわめて価値の高い文化財として、昭和27年に特別史跡に指定され、平成10年には世界遺産に登録されている。

平城宮跡歴史公園は、平成20年度に策定された「平城宮跡歴史公園 基本計画」に基づき、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間」として事業を進めている。

#### (2) 公園区域全体の整備状況について

平城宮跡歴史公園は、特別史跡平城宮跡の国有地を中心に、史跡平城京朱雀大路跡とその東側を加え、国営公園の区域とするとともに、その周辺において、奈良県が中心となり整備を行う区域を設定し、公園基本計画に基づき、国営公園と連携して県営公園区域の事業を進めている。

#### (3) 朱雀門ひろば（朱雀大路西側地区）の運営について

「朱雀門ひろば」は、“奈良時代を今に感じる”をコンセプトに、朱雀門南側の8.7haを国と県が一体となり整備したものである。平城京のかつての姿や人の営みに関する展示や便益施設を備えた新たな賑わいづくりの拠点となることを目指し、平成30年3月に供用開始した。復原遣唐使船、VRシアター等の集客施設に加え、屋内外でのイベントや体験メニュー等の集客イベントを開催することにより、にぎわいを創出するとともに、レストラン・カフェ・物販等を営業することで、公園の中で飲食や土産購入ができ、来園者の利便性の向上が図られた。

朱雀門来場者数

開園前 年間約 10 万人 (H29) →開園後 16 万 3 千人 (H30～R3平均)

復原遣唐使船乗船者数

開園前 年間約 5 万人 (H23～H27平均) →開園後 12 万人 (H30～R3平均)

レストラン、カフェ 年間利用者数 約 55,000 人 (H30～R2平均)

物販 年間利用者数 約 38,200 人 (H30～R2平均)

#### (4)朱雀大路東側地区の整備について

朱雀大路東側地区は、「公園基本計画」に基づき、“奈良時代を今に感じる”歴史文化体験と交流の舞台となる「歴史体験学習館」の整備を進めている。

令和2年12月に「平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）整備計画」を策定し、体験・交流テーマの3つの柱である①平城京へつながる歴史、②正倉院の宝物、③奈良時代の文化・くらしをテーマとし、最新の映像技術などを用いて、わかりやすく臨場感あふれる体験ができる施設となるよう検討している。

#### (5)平城宮跡歴史公園南側地区の整備について

積水化学工業(株)奈良事業所跡地である当地区は、朱雀大路の遺構部分を含むなど歴史・文化資源としての意義が大きく観光・交流拠点としてのポテンシャルが極めて高い場所となっており、令和2年度に新規事業化した。

令和2年度に当地区を「平城宮跡歴史公園 県営公園区域 基本計画」に追加し、当地区を「多目的エリア」と「朱雀大路保全エリア」に位置づけ、具体の整備計画策定に向けた検討及び一次造成工事を行っているところである。

### (3) 国指定史跡「牽牛子塚古墳・越塚御門古墳」

(調査目的：施設整備の状況について)

#### (1)概要

牽牛子塚古墳は古代の「越智岡」に所在するとともに、大王墓（天皇陵）のみに採用されている八角墳であることや埋葬施設が特異な構造であることから、『日本書紀』天智天皇六年条に記されている斉明天皇と間人皇女が合葬された小市岡上陵の前にある大田皇女の墓の蓋然性が高いとされている。

発掘調査の結果、墳丘の弱体化が認められ、恒久的な保護を行う必要性が高まった。本質的な価値の担保を図りながら牽牛子塚古墳の墳丘を後世に伝えるべく、劣化した墳丘や埋葬施設を補強盛土で覆い、外観を築造当時の姿に再現。外装には、石川県小松市で採れた凝灰岩を使用して、薄い板を貼っている。

さらに、古墳周辺の地形は築造当時の地形になるよう修景を行い、飛鳥時代の空間を創出している。

飛鳥時代の主要な古墳がすべて見える位置に牽牛子塚古墳はあり、整備を行ったことで位置関係がよく分かるようになった。

越塚御門古墳では、映像コンテンツによる解説システムを導入している。遺跡の概要を説明する約3分間の映像コンテンツのほか、中大兄皇子の視点で仕上げたドラマ仕立ての約12分間映像コンテンツを観ることができる。これらは多言語化対応しており、英語・フランス語・中国語・韓国語で観ることが可能である。

模型広場では、信楽焼で作製された30分の1サイズの墳丘（地形）模型を設置しており、実際の古墳と同じ角度で、見て触って体感できる。これにより、視覚障害のある方にも、古墳を分かりやすく紹介することが可能となっている。

明日香村観光協会と連携して、石室を公開しており、有料のガイドンスも行っている。その収益は明日香村文化財保護のための基金に充てられている。

また、商工会と連携し、ライトアップなど夜間のイベントなども検討している。

墳丘がアサガオの花びらのように多角形であったことから「朝顔」と呼ばれていたと想像でき、アサガオの丘では、10～11月頃にかけて、アサガオが咲くよう整備している。

## (2)整備の経過について

平成24年の集中豪雨で墳丘の一部が崩落。崩落の分析や検証を行った結果、現状では恒久的な保存が難しいという結論に至る。

後世へ適切に伝えるため、様々な視点から保存の在り方について議論し、平成26年3月に「牽牛子塚古墳・越塚御門古墳整備基本構想」、平成27年3月に「牽牛子塚古墳・越塚御門古墳整備基本計画」を策定。平成28年～29年にかけて「牽牛子塚古墳・越塚御門古墳基本設計・実施設計」を行い、平成30年1月から整備工事に着手し、令和4年2月に完成した。

## IV 提言等

本委員会では、付議事件「観光力の向上に関する事」について、「県内宿泊客増加に向けた観光の振興に関する事」「質の高いイベントの実施と県の文化力の向上に関する事」などの視点から調査検討してきた。

長引くコロナ禍に加えて、ロシアのウクライナ侵略により、原油をはじめとするエネルギー価格や食料品などが高騰、また急激に円安が進んでいることで、県民をはじめ国民の生活に幅広い影響が及んでいる。

このような中、コロナ禍により大きく落ち込んだ観光需要は、国による水際対策の緩和、全国旅行支援などにより持ち直してきているものの、感染症への不安等からコロナ禍前の水準に戻るには、しばらく時間がかかることが予想される。

そこで、旅行形態や消費者ニーズの変化等へ適時に対応し、地域や産業、県民が観光による地域活性化の恩恵を受けられるよう、観光地の更なる磨き上げにつなげていくため、次のとおり提言を行う。

### 1 県内宿泊客増加に向けた観光の振興に関する事について

#### (1) 県内宿泊等促進キャンペーン（「いまなら。キャンペーン」）の実施

運用方法等の向上を図りながら取り組んでいる「いまなら。キャンペーン」の経済効果について、検証をしっかりと行うとともに、県民に分かる形で発信されたい。

また、「いまなら。キャンペーン」を契機に、県内での周遊・滞在型観光を促進するべく、今後は日帰り客にも宿泊したいと思わせ、周遊・滞在目的で連泊を促すような仕組みづくりに取り組まれない。

#### (2) 周遊観光戦略と公共交通戦略との両立

「ぐるっとバス」やパークアンドライドは、奈良中心市街地の交通渋滞を緩和し、来県者の周遊促進を図るための施策として実施されているが、今後より多くの観光客、インバウンドが戻ってきた場合に備え、奈良市内の渋滞をどのような形で緩和していくのか、観光戦略と公共交通戦略の両面で調整を進め、取り組まれない。



### **(3) 奈良公園バスターミナルの運営**

奈良公園バスターミナルの利用予約は、インターネットを利用した予約システムで受付を行っているところ、現状、予約枠の上限値の設定が繁忙期と閑散期で通年をとおして同一となっている。

希望時間帯に予約が埋まっていることが理由で、奈良県を訪れたいという旅行客を逃してしまうことがないように、奈良公園バスターミナルの予約枠や最大処理台数の上限の設定などについては、繁忙期、閑散期を踏まえて検討されたい。

### **(4) 平城宮跡歴史公園の整備**

南側地区は、平城京の広がりを感じていただける公園としての整備を進めているところであるが、奈良の観光交通拠点として重要な役割を持つことから、奈良の玄関口にふさわしい公園となるよう、今後の進捗を図っていただきたい。

具体的には、今年度に策定を進めている整備計画において、施設配置や人を呼び込むための工夫などについて、パブリックコメントを踏まえ、良い案となるよう検討いただきたい。

### **(5) モビリティの実用化**

さらなる周遊環境の向上のためには、移動手段の拡大が必要であり、皆が利用できるようなサービスを提供していくことが、集客につながるといえる。現在、奈良公園内の新たな移動手段として、電動車椅子型モビリティの導入の可能性を検討しているところであるが、周遊観光機能を付与するには、複数人が乗れる乗り物が必要になるので、集客状況に合わせた移動交通システムの大型化も視野に入れた検討をされたい。

### **(6) 中町「道の駅」の整備**

中町「道の駅」は、観光地の入り口としての役割を果たす「地域観光のゲートウェイ機能」も備えた施設として整備が進められているところである。中町「道の駅」周辺は、大和郡山市や斑鳩町など、地形的にフラットな地域であり、自転車を使った周遊も考えられることから、そうした整備等も含めて、観光戦略について検討いただきたい。

## 2 質の高いイベントの実施と県の文化力の向上に関することについて

### (1) 観光部門におけるデジタル技術の活用

奈良の魅力を発信し、観光客の誘致・集客等に繋げるため、デジタル技術を効果的に活用した取組を進められたい。

また、県では、建造物の図面のデジタル化や、文化財のアーカイブ化等のデータ整備を行っているが、これら貴重な修復文化財のデジタルデータについては、セキュリティ対策を図るとともに、利活用の方法を検討されたい。

### (2) 修学旅行の誘致促進

修学旅行の誘致促進により、県内での周遊・滞在観光を推進し、将来の奈良ファンの育成を図るため、修学旅行にかかる経費を支援する「奈良県修学旅行誘致促進補助金」を実施しており、県内（奈良市を除く）での宿泊と、それに伴う全県での体験プログラムの利用にかかる経費が補助の対象となっている。

そこで、修学旅行の誘致にあたり、県内の体験プログラムを修学旅行生にしっかりと利用いただけるよう取り組んでいただきたい。

県中南部への宿泊を呼び込み、市町村実施の体験プログラムの利用を通して奈良県への修学旅行を呼び込むような取組が必要であるので、今後も重要な施策の一つとして、予算をしっかりと確保し、PRに取り組んで進めていただきたい。

### (3) まほろば健康パークの機能強化

まほろば健康パークの機能強化にあたっては、防災拠点としての整備のほか、中央卸売市場の再整備など、近隣の関係施設や計画との連携を進める必要がある。また、大和川直轄遊水池事業との連携についても検討されたい。

まほろば健康パークの機能強化後は、電車を利用した利用客がさらに多く来園されることも予想されることから、最寄駅であるファミリー公園前駅のバリアフリー化に向け、鉄道事業者と協議を進められたい。

施設の料金設定については、県有地で実施することであるので、県でもしっかり把握をしながら事業者に指示していただきたい。

#### (4) 奈良まほろば館の運営

奈良まほろば館は、首都圏における奈良県の情報発信を目的に県が運営しているが、物販やレストランについては民間事業者のノウハウを活用して持続的、安定的な運営を図りながら、館全体として効果的に情報発信を行っている。まほろば館の多様な活動について複数の目標を設定し現状把握を行うことで、より一層効果的な運営に努められたい。

また、まほろばチャレンジリーグを含めた県産品販売の取組については、県産業の振興に役立つ情報の発信・収集の場としても活用されたい。

## V おわりに

観光を取り巻く状況が、新型コロナウイルス感染症の流行や大規模な交通インフラの整備、経済状況など様々な社会情勢から影響を受け変容する中、県では、令和3年7月に「奈良県観光総合戦略」を策定し、県内宿泊客増加に向けた観光の振興、質の高いイベントの実施と県の文化力の向上を目指して、現状や課題、目標などを明確にししながら、経済活性化のために、宿泊を伴う周遊・滞在型観光の促進に取り組んでいる。

本委員会は、所管事項を「観光力の向上に関すること」とし、その視点から、県内外の事例調査を含む調査活動に取り組むなど、活発な調査を進めてきた。

奈良県の観光が活性化するためには、観光客が訪れたいくなるような魅力の磨き上げが必要であり、その魅力を広く知らしめ、新たな観光誘客につなげることが不可欠である。

また、快適な旅行に必要な受入環境の整備を進めて、観光客の満足度を高めたり、安心・安全な観光や持続可能な観光へ配慮したりすることが肝要である。

以上により、本委員会の調査は終結するが、奈良県において令和4年12月12日から15日にかけて開催された「UNWTOガストロノミーツーリズム世界フォーラム」の経験を活かして、食と観光の連携による国内外からの誘客を目指すなど、奈良県の潜在的な観光資源の磨き上げに、引き続き、取り組んでいただきたい。

県がリーダーシップを発揮して市町村や関係機関との連携強化を図りながら、観光力の向上に一層努めることにより、名実ともに「世界中に名を馳せる観光地・奈良」が実現することを要請し、本委員会の報告とする。